



報道関係各位

2019年10月吉日
福田美術館

福田美術館 開館第二弾「美人のすべて」展 開催！ ～初公開、上村松園の「雪女」～

2019年10月1日に開館し、現在「開館記念 福美コレクション展」を好評開催中の福田美術館では、第2弾となる次回展覧会を「美人のすべて」と題し、上村松園を中心に東西で活躍した画家による美人画展を開催することとなりました。本展覧会でも、開館記念展に引き続き、注目すべき初公開の作品や幻と言われた作品をご覧ください。ご期待ください。

松園作品を中心に、東西で活躍した画家による美人画を展示！

「美人画」とは容姿や装い、あるいは感情の動きや内面から醸し出される美しさなど、さまざまな観点から女性の魅力を描いた絵画のことです。明治時代以降、日本画の重要なジャンルとなり、多くの画家が絵筆を振りました。中でも、京都を代表する日本画家・上村松園(1875-1949)は、女性が画家を職業として生きることが困難だった時代に、独自の美人画で道を切り開いた功績により、女性初の文化勲章を受章しました。本展では理想的な「美」を追求した松園作品を中心に展示いたします。

ほかにも、鏗木清方(1878-1972)や伊東深水(1898-1972)など、東西で活躍した画家による美人画も展示。特に近年注目を集める木島櫻谷(1877-1938)の「婦女図屏風」は、長らく所在が確認されていなかった大作です。動物画に定評のある画家が描いた珍しい美人画は見逃せません。華麗な衣装、美しい仕草や表情を巧みに捉えた画家たちの描写力をご堪能ください。



上村松園「初雪」
(部分)



上村松園「姉妹之図」(部分)



伊藤小坡「製作の前」(部分)



山川秀峰「振袖物語」(部分)



木島櫻谷「婦女図屏風」



上村松園「美人観月」(部分)



誰も知らなかった、松園の「雪女」。本邦初公開！

初公開となる「雪女」は、一見同じ松園の筆であるとは思えないほど異彩を放つ作品で、この度貴重な原画が発見されました。

松園の「雪女」～原画の発見から初公開へ。

福田美術館学芸課長 岡田秀之

「岡田さん、これも見ていってください。ずっと家にあって、ある歌舞伎俳優の女形さんは、怖い役をやるときには楽屋にこれを掛けていたんですよ。」

2016年10月中頃、与謝蕪村の史料を調査しているとき、所蔵者が慣れた手つきで小さな箱を開けて、床に掛けたのが「雪女」との出会いだった。見た瞬間、身震いがしてどんどん体温がさがっていくような感じがした。



黒い背景にシルエットが浮かび上がり、顔の濃淡はくぼんだ目に見える。右手で左側の乱れた髪を整える姿はどこか色っぽい。前に出した左手で持つ一振の太刀。その太刀の柄(え)と鍔(つば)の金具部分だけ金で彩色され、胡粉による雪が吹き荒れる。

小さな字で「松園」と署名があることから、美しい女性の絵を描くことで有名な女性画家上村松園が描いたことが分かる。調べていくと、この「雪女」は、近松門左衛門の没後200年にあたる大正12年にむけて出版された『大近松全集』第12巻(大正11年)収録の浄瑠璃「雪女五枚羽子板(ゆきおんなごまいはごいた)」のなかの一場面を題材した付録木版画の原画であることが分かった。

本作を描く4年前、松園は謡曲「葵の上」をもとに嫉妬に狂う生霊を描いた「焰」(東京国立博物館蔵)を描いているが、「雪女」も線と色をできるだけなくして、シルエットと太刀だけで、女性の恨みの念をみごとに表現している異色の作品である。

木版画としては知られていたが、原画の存在はこれまで所蔵者とわずかな関係者のあいだでしか知られておらず、今回2020年1月29日から始まる「美人のすべて」展で初めて一般に公開される。

タイトル	美人のすべて
会期	2020年1月29日(水)～2020年3月8日(日)
開館時間	10:00～17:00(最終入館 16:30)
休館日	火曜(祝日の場合は翌日)
入館料	一般・大学生:1,300(1,200)円 高校生:700(600)円 小中学生:400(300)円 障がい者と介添人1名まで:各700(600)円 ※()内は20名以上の団体料金 ※幼児無料
主催	福田美術館、京都新聞 https://fukuda-art-museum.jp/

■ 報道関係のお問い合わせ

「福田美術館」広報事務局 (ウインダム内) 担当:沼澤、多田

TEL 03-6661-9448 FAX 03-3664-3833 Email fukudamuseum@windam.co.jp

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9-4F 「福田美術館」広報事務局



■福田美術館について

2019年10月、京都屈指の観光地である嵯峨嵐山に、新名所「福田美術館」が開館します。

福田美術館は、「100年続く美術館」をコンセプトに、現代まで受け継がれてきた日本文化を次世代に伝え、さらなる発展へと繋がる美術館を目指します。

オーナーである福田吉孝は京都に生まれ育ち、そこで事業を興し、今日まで続けてまいりました。これまで支えていただいた地元の方々のご支援、そして京都という土地に対して、恩返しをしたいという熱い思いから、当美術館を設立する運びとなりました。

福田美術館の建つ場所は、古来より多くの貴族や文化人に愛され、芸術家たちがすぐれた作品を生み出す源泉となった嵯峨嵐山。今や日本国内だけでなく世界中から人々が訪れる観光地となっています。

この美しい自然とともに日本美術の名品を愉しんでいただくことで、嵐山が世界有数の文化発信地となることを願います。



■建物について



嵐山を映し出す「水鏡」となる大きな水盤



「蔵」をイメージした展示室



「渡月橋」が最も美しく見えるカフェ

福田美術館の建築は、伝統的な京町家のエッセンスを踏まえつつ、これからの100年のスタンダードとなるような新しい日本建築を志向しています。洗練された和モダンの外観デザインは、周辺の自然に違和感なく溶け込んでおり、また内観にも「蔵」をイメージした展示室、「縁側」のような廊下、「網代文様」から着想された壁面ガラスなど、随所に日本的な意匠が見られます。庭には大きな水盤があり、目前を流れる大堰川・桂川に連なる水鏡のごとく、嵐山を映し出します。

また美術館内には、この地のシンボルである渡月橋をもっとも美しく一望できるカフェが設けられました。

■美術館概要

- 福田美術館 FUKUDA ART MUSEUM
- 京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-16
- 敷地面積 1982㎡
- 延床面積 1193.58㎡
 - ・展示室1 151.2㎡ ・展示室2 175.4㎡ ・展示室3 64.5㎡
- 交通アクセス
 - ・JR山陰本線(嵯峨野線)「嵯峨嵐山駅」下車、徒歩12分
 - ・阪急嵐山線「嵐山駅」下車、徒歩11分
 - ・嵐電(京福電鉄)「嵐山駅」下車、徒歩4分

